

や か び ちょう き ず し が め 屋嘉比朝寄の厨子甕

工工四の創業者

屋嘉比朝寄について

屋嘉比朝寄は1716年に玉川あし按司朝雄しゅうごうの四男として首里に生まれました。若い頃から音楽の才能を認められ、尚敬王の命を受け、鹿兒島で謡曲・仕舞などの大和芸能を学びます。帰国後の経歴には不明な点が多く、取納座筆者という役職に就いていた時に眼病を患って失明し、職を辞したといわれています。

その後、師の聞覚もんかくについて歌三線うたさんしんを学び、持ち前の音楽的素養を活かして、従来の三線音楽に改革を加えたとされます。晩年には大和芸能の功績によって屋嘉比の名嶋なしま(名目上の領地)を拝領し、屋嘉比親雲上べいそんと名乗るようになりました。現在、屋嘉比朝寄の名は、三線音楽の工工四を創案した人物として、ひろく知られています。



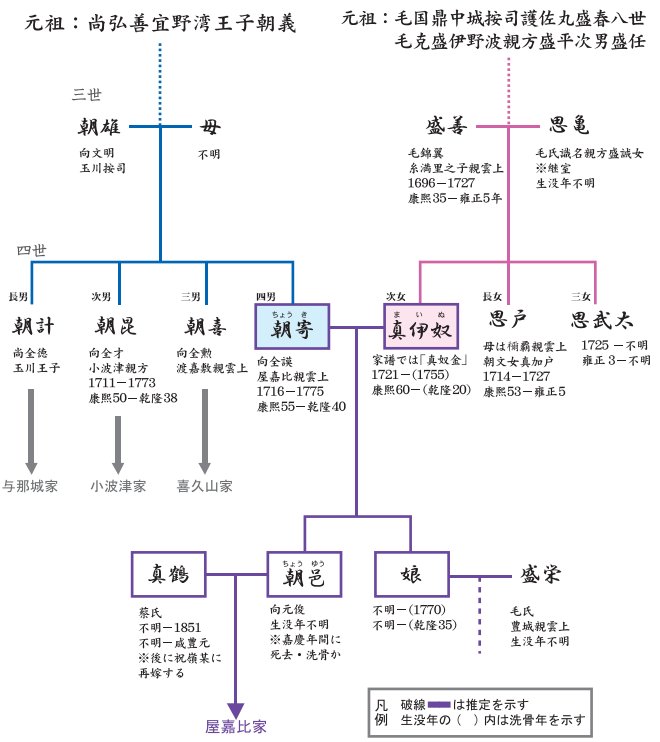
屋嘉比家のお墓

屋嘉比家には家譜けふが現存しないため、これまで家族については不明でしたが、浦添市教育委員会による厨子甕と墨書すみかき(銘書)の調査で、妻・真伊奴まいるの存在とその間に二人の子供がいたことなどがわかりました。



屋嘉比朝寄(左)と妻・真伊奴(右)の厨子甕

系図の復元



銘書

屋嘉比朝寄の厨子甕 (高さ: 58cm, 口径: 30.5cm, 胴径: 39cm, 底径: 25cm)

向文明玉川按司朝雄四男
向全謀屋嘉比親雲上朝儀
乾隆四拾年乙未正月十八日
死去同四拾五年庚子七月
十二日洗骨

【翻刻】
向文明玉川按司朝雄四男
向全謀屋嘉比親雲上朝儀
乾隆四拾年乙未正月十八日
死去同四拾五年庚子七月
十二日洗骨

【現代語訳】
玉川按司朝雄(向文明)の四男である屋嘉比親雲上朝儀(向全謀)は、一七七五年(乾隆四〇)一月十八日に亡くなり、一七八〇年(乾隆四五年)七月十二日に洗骨されました。

下の銘書と名前を見比べると一見別人のように見えます。しかし、「向全謀」という名前が共通しているため同一人物であることがわかります。つまり、朝寄は晩年に「朝儀」と改名していたこととなります。

真伊奴の厨子甕 (高さ: 47cm, 口径: 23cm, 胴径: 32cm, 底径: 21cm)

四世向全謀屋嘉比親雲上朝寄四男玉川里之子親雲上室真伊奴毛錦翼糸満里之子親雲上盛善女
乾隆二十年乙亥九月十二日洗骨

【翻刻】
四世向全謀童名真牛名乗朝寄四男玉川里之子親雲上室真伊奴毛錦翼糸満里之子親雲上盛善女
乾隆二十年乙亥九月十二日洗骨

【現代語訳】
四世で四男の玉川里之子親雲上朝寄(向全謀)・童名真牛の妻である真伊奴は糸満里之子親雲上盛善(毛錦翼)の娘で一七五五年(乾隆一〇)九月十二日に洗骨されました。

浦添市教育委員会の調査によって、屋嘉比朝寄の妻とその子供達の存在が明らかになりました。また理由は不明ですが、朝寄が晩年に「朝儀」と改名していた可能性があります。以上の調査成果は、屋嘉比朝寄の人生や人物像を解明するための重要な手がかりとなるものです。また今回の調査成果は、家譜が現存しない場合でも、厨子甕に記された銘書などから家系図を復元することのできた良い例です。厨子甕は貴重な歴史資料であり、後世に伝えるべき文化財です。

朝寄の妻・真伊奴は護佐丸を始祖に持つ首里の名門士族毛氏糸満家の出身で、家譜から1721年の生まれとわかりました。また、洗骨は通常死後3~7年後に行われるので、30歳前後で亡くなったと考えられます。